HIRUGANOTE かきこみ広場

ご近所さんの近況を紹介するプチコーナー

Mamekana

花の駅 ひるがの高原 コキアパーク ひるがの高原スキー場

ひるがの高原コキアパーク。
本年の営業は 10 月 27 日をもって終了いたしました。園内はコキアやお花畑はもちろん、ジップラインアドベンチャーや山頂 BBQ、ディスクゴルフにドッグラン。昨年からの施設に加え、今年は小さいお子さん向けのストライダー（ランニングバイク）のコースも設営。年々進化し続ける「ひるがの高原コキアパーク」の来年に好ご期待下さい！
そして雪が降ったら、ひるがの高原スキー場として今シーズンもどうぞよろしくお願いします。

牧歌の里 Bokka no Sato

牧歌の里。11 月 24 日まで営業します。
白山も雪化粧して、これからは紅葉も見ごろで、花の季節とは違う景色をお楽しみ下さい。日にちによってはパフォーマンスショーや、動物イベント、音楽祭もあります。そして大感謝祭企画！なんと抽選で飛騨牛があたるスタンプラリーもあります。また 12 月に向けて、体験工房でオリジナルのクリスマスリースやキャンドル・カード作りはいかがですか。風が強いので防寒対策しっかりして、ぜひお越しください。12/7 ～ 3/31 の土日月と祝日は冬季営業やってます。

キッチン&バー アウル OWL

OWLの庭にはどんぐりがいっぱい。
オーナーから一言もらいました。
「秋から年末年始にかけて、忘年会などで人が集まる時期です。二次会やちょっと飲み足りないかな、っていう時。遅めの時間でもOWLはお待ちしていますよ。」フードメニューのラストオーダーは 22 時 30 分までですが、その後の時間も飲み物なら対応します（特に地元の方歓迎）という温かいお言葉でした。

ひるがの LACHAISE

ラシェーズ引っ越しました。
現在は、板橋「わに石」付近。看板を目印に、道を少し入った場所にお店を構えています。元・佐藤牧場でわかる人も多いかもしれません。ヤギのいる草原風の庭を眺めながらのんびりカフェタイム。冬期はひるがの高原スキー場で営業しています。
※12月7日ポートメッセ名古屋で開催される「クリエイターズマーケット」に出店。
要チケット。詳しくはインターネットで。

イベント情報やちょっと報告したいこと告知など、ひるがののこと何でもOK、情報をお寄せ下さい。発刊に間に合う記事を掲載いたします。

「ひるがのーと」ご協力 ありがとうございます

お陰様で、たくさんの方から寄付や賛助を頂戴いたしました。心より御礼申し上げます。
なお、郡上市からの補助金にて運営の半分を賄わさせていただいておりましたが、３年の補助期間終了となり、来年度からは補助金なしの運営となります。引き続きみなさまの篤いご支援をお願い申し上げます。

ひるがのーと協力金
ありがとうございました

洞平由夫さん　中邑米子さん　古橋　武さん　古屋孝三さん　奥山友加さん
山畑邦子さん　安田瑞彦　さん　高原正典さん　西村美奈子さん　原　美津子さん

■ ひるがのーとの会 ■
代表 / 清水 聡　0575-73-2101

■ 制　作 ■
ぱっぱ・るいーず（中屋園実　森祐子）

■ 協力　写真・文 ■
瀬川和也　舟橋哲也　中田信也

ひるがのーとへのご意見・ご感想もお待ちしております。どうぞお気軽にご連絡下さい。

ひるがの簡易郵便局の観光案内所
（湿原植物園窓口）　中田まで

ひるがのーとの会

●協力金一口 / 500 円より

ご協力いただける方はお手数ですが、
〇フレッシュフーズひるがの　　田中多恵さん
〇観光協会・湿原植物園窓口　中田さん
どちらかへお願いいたします。

編集後記

秋という季節は知らない間にやってきて、気づくと終わっていますよね。それでも秋は待ち遠しい季節でもあって、楽しみもたくさんあります。
今回のひるがのーとは、秋の風物詩「祭り」を取り上げてみました。一度はやってみたいテーマでしたがタイミングが合わず、実現できずにいました。やっと思いが叶いました。
色々お話を聞いてみて、やっぱり行き着くところはひるがのの「人」の良さでした。やろう会の話といい、青年団の話といい、ひるがのには若い人たちが地域のために何かやろうというステキな土壌がしっかり出来上がっているなと思ったのです。「若い人」はいつか年を重ね、ベテランになっていきますが、その時には次の世代がそのまた次の世代へと、見えないバトンをきちんと渡しているようです。子どもの頃に楽しみだった行事を、次の子どもや若者たちが楽しめるように。「自分たちが楽しいからやっているだけじゃない。」という言葉が印象的です。誰が教えたわけでもないのに、ひるがのには「祭りの楽しみ方」が脈々と受け継がれ、いずれ主力になる次の若者を思いながら自分たちも思い切りバカをやる。それは、短いけれど毎年人々が心待ちにしている秋のように、たくさんの楽しみを用意して、今年もそして来年も、その次も…と、めぐりめぐっていくのでしょう。

ひるがのーと..
ひるがのーとは、郡上協働まちづくり活動支援補助金の交付を受けて作成しています。
編集・作成
ひるがのーとの会
発行日/2013.10.30

もっと「知りたい」「知らせたい」… みんなで

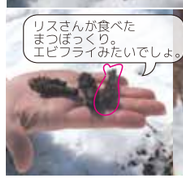
ひるがのーと..

Vol.12

あと一歩ふみだして
あえて
ひるがの体験

すぐそばで発見！ほんとに動物が暮らしてる証拠

３月３日。ひるがのでも春の訪れを感じる気持ちいい晴れの日。フィールドガイドの太田千香子さんの案内で森の動物の痕跡を探しに出かけました。森の奥深くに入らなくても、それはすぐに見られる、ということでひるがの高原スキー場へ。もう春先の固まった雪「かってこ」になってるから、足跡を見つけるのは無理かも。それでもスキーを履いてクワッドリフトで頂上へ。一体、何が見つかるのでしょう？



リフトを降りてすぐ。実は動物パラダイス。

頂上まで上がってきた私たちは、昨シーズンにオープンした林間コースの入り口へ。「あれは朴の木の花の跡だよ。」と頭上を指差され、見上げると、高い枝の先にマッチ棒の先のようなオシベが。見慣れたはずの木なのに、何の木かも知らずにいたことに気づきます。

そこから、ほんの十数メートル。そこに生えている木の種類や特徴を聞きながら滑ると、「ここでリスが食事をしたみたい。」と千香子さん。スキーを脱いで近づくと、雪の上にどんぐりや松ぼっくりなどの木の実の残骸が散らばっています。そのすぐ上の低い枝に手を乗せ、「ここに座って食べたかな？」と言われると、皮をぽろぽろ落としながら木の実を食べるリスの姿が浮かびます。その周辺にはいくつか同じような場所がありました。リスの食事場所を追っているうちに、諦めていた足跡発見！どうやらカモシカのようです。喜んでいたら、きれいな小鳥がすぐ上の方で枝の上をぴょんぴょん跳ねています。そして、そのすぐそばに本日の目的発見！熊棚（くまだな）です。熊はどんぐりなどの木の実を食べる時、木の高い所に登り、実のついた小枝をバキバキとへし折りながら自分の方へ引き寄せて、食べるんだそうです。その跡が棚のように見えることから熊棚と呼ばれているのだとか。「へえ～。」なんて感心して眺めていたら、「何してるの？」とスキースクールの先生と小さな生徒さんに声をかけられました。そうです。ここはスキー場。ゲレンデのすぐ脇にこんなにも動物たちの暮らしの跡があることにびっくりです。

「さて問題です。」知ってるようで知らない動物クイズ

千香子さんの仕事はフィールドガイド。自然の中でいろんな体験をしたい人たちのお手伝いをします。街から自然を求めてやってくるファミリーや子供たちが楽しめるように工夫を凝らしています。

そこで、私たちにもクイズを用意してくれました。

第一問。「鹿の角はどうやって生えているでしょう？」

実際の鹿の角を２本差し出されて、しばらく困惑する私たち。「たぶんだけど…。」と、千香子さんが雪で作った鹿の頭に角を立ててみましたが、ちょっと向きが違ったみたい。

さらに、イノシシの牙が４本出てきました。

第二問。「イノシシの牙はどうやって生えているでしょう？」

やはり雪のイノシシに牙を差し込むのですが、意外と難しい。大きな牙は下あごから生えてるとして…上の歯がどんな風に生えてるかなんて、まったくわからない。「左右上下と、その向きまで正しく？？？」降参です。千香子さんは、正解に加えて、イノシシがどうやって木の実を噛み砕いているかまで牙を使って説明してくれました。なるほどぉ。

その他、リスのくるみの食べ方など、聞けば知らないことがてんこ盛り。

こんなに動物と近い場所で暮らしているのに、自分の頭の中にあるのは絵本やアニメなどの作られたイメージばかりで、本当のことはわかってないんだ、という衝撃の真実を知りました（汗）。

自然と友だちになって、生きる知恵をつけよう。

千香子さんがこの仕事を始めたのは、まだ昨年のこと。数年前から温めてきたアイデアを形にしている途中だとか。幼いころから、猟をするおじいさんに連れられて、よく山には入ったそうです。でも自然の良さを実感したのは、大人になってから。いろんな夢を追ってひるがのを離れ、数年を都会で暮らしましたが、体調を崩して帰郷。体力を回復させるためにあちこちの山に登るたび、幼い頃、森で遊んだ記憶が甦り、忘れていた自然の魅力を再発見します。

千香子さんはこの仕事を始めたきっかけをこう話します。

「山の中には危険もいっぱい。でもひるがのでは、深い森に入らなくても、楽しいことがたくさんある。それをもっと知ってほしい。子供たちに、ゲームやテレビでは味わえないわくわくをたくさん経験してほしい。枝を使って火をおこしたり、食べられる木の実を味わってみたり。そうやって自然と友だちになれば、少しずつでも生きる知恵がつくはず。そして、もし大きな災害にあっても、自分で生きられる力がついたらいいなと思う。」

「いつでもすぐそばに素晴らしい自然環境があるんだから、その魅力を知らないのはもったいない。」と千香子さん。

今年の夏から、フィールドガイドの仕事を本格始動する予定だそうですが、観光客はもちろん、地元の子供にこそ楽しみを体感してほしい、と意気込みを語ってくれました。

●太田 千香子さん

ひるがの生まれのひるがの育ち。
幼い頃から祖父の猟について山に入る。
現在はフィールドガイドの肩書きで自然体験のお手伝いをするかたわら、冬はスキーやスノーボードのインストラクターでもある。
自然体験の問い合わせや予約は、
下記へご連絡ください。

高鷲北小学校 in Winter

雪上綱引き。
２組に分かれて力いっぱい引き合います。さて勝敗はどちらに！！！

スノーフェスタ

１年生から６年生まで一緒にがんばる冬行事のひとつ。
いわゆる雪上運動会。
雪が積もったら、みんなで雪踏みをして雪上整備。

本番のスケーティングリレーは見もの。
見よ！この雄姿を！

上級生が下級生に
スケーティングを教えます。
どちらも真剣。
スケーティングリレー、
格好よく活躍したいもんね！

スキー教室

低・中・高学年に分かれ、２月半ばのスキー大会まで、ほぼ週に一度スキー場へ出かけ、学校の先生たちやボランティアの皆さんに丁寧に指導してもらっています。各スキー場さんの協力や、地元の皆さんの温かい支援のもとに、子供たちのスキーや地元への感謝の気持ちや、愛情も育まれています。

高鷲北小の子供たちの
スキー教室の様子は、
他のスキーヤーも
注目しているそうです。

We love ひるがの

大好きなひるがののこと教えて下さい ⑫

家庭で。地域で。
ひるがのの子たちは「愛される子」です。

朝、国道沿いの高鷲北小学校の校門前で、登校してくる子供たちを出迎えている男性の姿を見かけたことはありませんか？晴れの日も、雨の日も、雪の日も。ほぼ毎朝、児童を出迎えているこの男性が、高鷲北小学校の校長・伊地田香織先生です。休日にも、盆踊りや祭り、スキー大会など、子供たちが参加する行事に積極的に足を運んで子供たちの様子を見守ってくれている、子供たちにとても近い校長先生です。

今回のＷｅ LOVE ひるがのでは、伊地田先生に、ひるがのの子供たちの話や地域としてのひるがのの話を伺いました。

先生のご自宅は八幡町。ひるがのにはスキーを楽しみに来たり、趣味のカメラを持って、四季折々の美しい景色を撮影しに来たり、と、こちらに赴任する前からわりと親しみのある場所だったようです。

Ｉ　先生、ひるがのはいかがですか？

「大好きです。もし僕に継ぐべき家がなくて、土地も畑もなくて、どこに住んでも自由な身だったとしたら、ほんとにここに住みつきたいくらい。学校の隣の売り物件の値段、何回も聞きましたよ（笑）。」

ひるがののこと、相当気に入ってくださっているようです。

Ｉ　北小の子供たち、特徴ってありますか？

「すごく愛される子たちですね。」

Ｉ　と、おっしゃいますと？

「人なつっこいというか、人の懐にすっと入っていくんです。去年の秋、僻地赴任の教員の取材でＣＢＣテレビが学校に入ったんですが、その時も取材に来るスタッフに子供たちがなついちゃって、ぶらさがるようにくっついていましたね。この子たちって何なんですか？って聞かれました。無邪気ですよね。擦れたところがない。誰にでもかわいがられる、愛される子たちです。」

「冬にお世話になってるスキー場の方々に、毎年子供たちからお礼の手紙を書くんですが、どこのスキー場さんもとても楽しみにしていてくださるんです。ああ、今年もまた書いてくれたって。どこに行ってもこの子たちは大事にされてます。」

校長先生のお話は続きます。

「北小の子供たちは家庭はもちろん、地域でも愛情いっぱいに大事にされていると思います。たとえば、祭り笛。北小では３年生になると、各地区の祭りのお囃子の笛を、上級生や地域の方から教わります。そして、ひるがのでは４年生の男子は獅子舞の花取り（獅子と共に舞う子役）として、祭り本番にも活躍します。その練習も厳しいですよね。子ども扱いしてないですよ。地域の行事にもちゃんと子供に役割が与えられていて、地域の一員として認められているということです。」と伊地田先生。

地域ごとの行事そのものがなくなりつつある時代の中で、この辺りでは次の世代に受け継がれているものがある。

「ひるがのでは遊びにも一生懸命ですよね。バレーボール大会とその後のバーベキューとか。大人が本気で楽しむ時、必ず子供たちも一緒にいる環境って、他ではあまり見られなくなりました。そういう地域性が、子供を素直に育てているのじゃないですか？」

一方、学校内では、縦割りの「仲良し班」というのがあって、班対抗で大縄跳びをしたり、班別に給食を食べたり。少人数だからできる学年を越えた交流のおかげで、上級生は下級生にとても優しいし、下級生は上級生を頼りにしているそう。

「ここでは教員たちも、よく子供を抱っこしたりおんぶしたりしますが、子供同士でもそれが当たり前です。冬になると大きい子が、あったかいからといって、小さい子を取り合って抱っこしてます。」

３月の終わりには卒業式があります。北小では、毎年、先生も児童も、ほとんど全員が別れを惜しんで涙を流します。その姿を見て、来賓の方々ももらい泣きするくらい。

子供たちとの距離がすごく近い校長・伊地田先生は、今年もきっと涙をこらえきれないかもしれませんね。

伊地田 香織さん（５３歳）

校長になって初めての赴任先が高鷲北小学校。今年の３月末で丸３年。いつも子供たちの近くにいる優しい物腰からは意外なことに、専門教科が英語のため、小学校に赴任したのは初めてだとか。
でも周りから「君は小学校の方が合っとるね。」とよく言われていたそう。

知ればもっと好きになる。

ひるがの高原の貴重な動植物

第一回　～南限のエゾイトトンボ～

私がトンボに興味を持ち始めたのは、友人がひるがの高原ではこれまで文献に記録のなかったハッチョウトンボを平成 18 年に見つけてからです。それから現在までに、友人と私とでひるがの高原では約 30 種のトンボを観察しています。その中に青い色をしたイトトンボがいることにかなり前から気づいていましたが、それがエゾイトトンボだという種類だとはっきり分かったのは、ひるがの湿原植物園で撮った写真を整理していたときでした。写真 1 がそれです。背中(腹部の第二節)にはっきりとしたスペード型の斑紋があるのが分かります。これは、エゾイトトンボのオスにしかない特徴です。

エゾイトトンボ(蝦夷糸蜻蛉)は、その名の通り、北海道全域が主な生息地域で、本州では中部地方以北の主に日本海側に分布しています。昨年発売されたばかりの図鑑（※1）を見ると、岐阜県は生息域の南限に位置していることが分かります。また、岐阜県のレッドリスト（※2）に、準絶滅危惧として記載されています。岐阜県のホームページ (※3) で確認すると、ひるがの高原は県内でもエゾイトトンボの生息域の南限に位置していること分かります。つまり、ひるがの高原は日本全国のエゾイトトンボの生息域の南限であるかもしれないということです。

そのような珍しいトンボならば、観察するのはさぞ難しいのではと思うかもしれませんが、6 月にひるがの湿原植物園のミズバショウ池や水路の周辺では比較的簡単に見ることができます。しかし、どういうわけか、ひるがの高原の他の場所ではあまり見たことがなく、不思議に思っていました。図鑑(※1)では、エゾイトトンボの生息場所は「平地～山地の周囲に樹林のある抽水植物や浮葉植物の繁茂する透明度の高い池沼」とあります。それは、ひるがの高原では、コウホネ、ヒツジグサ（準絶滅危惧)、ヒルムシロ（絶滅危惧Ⅰ類）などが生えている場所です。これらの植物に共通するのは、近い将来、ひるがの湿原植物園の池や水路が、ひるがの高原の最後の生育場所となる可能性が高いということです。つまり、そこを生息場所とするエゾイトトンボにも同じことが言えます。

現在の尾瀬ヶ原のように、おそらくかつてのひるがの高原には、ここでは今ではほとんど見ることのない浅い池や沼や緩やかな流れが今よりずっと広かった湿原の中に転々と存在していたはずで、そういう場所に先にあげたような水生植物や、そこを住処とするエゾイトトンボなどのトンボが飛び交っていたはずです。園内の池や水路は、人間の憩いの場として整備する際に人工的に作ったものではありますが、偶然にも今では本来の意図とは関係なく貴重な水生植物やそこに生息する動物たちを保護する重要な役割を担うことになっています。

エゾイトトンボがひるがの中どこでも見られるようになることは今後も難しいとは思いますが、もし、そうなれば、ひるがの高原はエゾイトトンボ生息の南限としても広く認識されるようになるかもしれません。

（文章・写真　瀬川和也）

参考：
※1　尾園暁・川島逸郎・二橋亮 , 2012. 日本のトンボ . 文一総合出版 .
※2　岐阜県レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の一覧）
　絶滅危惧Ⅰ類：県内において、絶滅の危機に瀕している種
　絶滅危惧Ⅱ類：県内において、絶滅の危険が増大している種
　準絶滅危惧　：県内において存続基盤が脆弱な種
　　詳しくは、岐阜県のホームページ　http://www.pref.gifu.lg.jp/kankyo/shizen/
※3　岐阜県のレッドリストのエゾイトトンボのページ
http://www.pref.gifu.lg.jp/kankyo/shizen/red-data-dobutsu/konchu-rui/ezoitotonbo.html

エゾイトトンボ（雄）と背中にあるスペード型の模様
2005/6/7 ひるがの湿原植物園：撮影
エゾイトトンボは、止まる際には羽を背中側で閉じる。これは、イトトンボやカワトンボの仲間（イトトンボ亜目）の特徴である。一方、赤とんぼ・シオカラトンボ・ヤンマの仲間（トンボ亜目）は、羽を横に下ろして止まる。

エゾイトトンボの交尾
2010/6/30 ひるがの湿原植物園：撮影
ミズバショウの葉の上で交尾中の雄と雌。
雌は緑色をしている。

エゾイトトンボの産卵
2010/6/10 ひるがの湿原植物園：撮影
ヒルムシロの葉の上に止まって産卵中の雌と雄。産卵は雄と雌が連結して行うことが多いが雌単独の場合もある。

ばーど・うおっち

File No.9

カケス

スズメ目
カラス科カケス属
全長約 33cm

怖い顔した綺麗なカラスくん
☆カケス☆

カケスの漢字表記は「懸巣」、「カシドリ（橿鳥)」とも呼ばれるようです。

全長約 33 センチ。頭は白色で黒線のあるごま塩頭、目つきがとても鋭く、体は淡いブドウ色、尾は黒、腰は白、翼は黒・白・青のまだら模様で非常に美しい。カラスの仲間内では小型ですが、ばたばたとはばたき、フワフワした感じでゆっくり飛んでいます。色彩がとても美しく写真撮影に適した鳥だと思います。

「ぎゃーぎゃー」と非常に騒がしく悲鳴のような声で鳴きます。他の鳥の声を上手に模倣することから、優柔不断で主体性のない人のことを、この鳥にみたてて「カケス野郎」ともいいます。

カケスは数羽で固まって移動することが多いですが、とても臆病で意外と人前に姿を見せることは少ない鳥です。

ひるがの高原では、特に冬によく見ることができます。雪原にえさ台を置いて、ドングリやひまわりの種を載せておくと、食べにくるので試してみてください。

【文 / 写真：舟橋哲也】